

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2021 年 7 月 31 日
報告者	脇本 忍
助成団体名 (所属団体名)	聖泉大学 SAA 総合学習プロジェクト
団体住所	〒 521-1123 滋賀 都道府県 彦根市肥田町 720
団体電話番号	0749 — 43 — 7528
代表者 (助成対象者)	脇本忍
助成対象事業	聖泉大学 SAA 総合学習プロジェクト
事業（助成）期間	2020 年 4 月 1 日 ~ 2021 年 3 月 31 日
事業費総額	533015 円
助成金総額	444000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

児童教育には、知識・感性・健康を対象にしたアプローチが必要であるとされています。本事業では、それらから科学（Science）・芸術（Art）・アスレティック（Athletic）を選抜した総合学習を提供します。子どもたちの勉強嫌いや学習モチベーションの低下要因は複合的ですが、わからないこと・飽きること・関心が持てないことが主要因だと推察されています。それらの現状に対して、楽しみながら学ぶという新たな視点から大学生が児童に体験主体の実践型教育をおこないます。

具体的には、科学プロジェクトでは生物・化学・物理の理科実験。芸術プロジェクトでは映画製作・映画上映。アスレティックではタッチフットボール。これらを児童の課外活動の一助として滋賀全域で活動し、アクティブで学習好きな児童を育てます。

滋賀県の不登校者数は 617 人とされ、長期欠席者も含めると看過できない状態の児童や生徒たちがいます。人間関係や学力不振などの要因があげられますが、自己の行き場と活動する何かのきっかけが必要だと考えられます。しかし、身の置き場に困惑し社会に対する無言の訴えが登校拒否なのかもしれません。学校という既存の枠組みと接触すること自体が困難なのかもしれません。

本事業は、遊びの要素を多く取り入れた科学（Science）芸術（Art）アスレティック（Athletic）各部門の学外活動に参加することで、関心ある分野との出会い。さらに、しがらみのない新しい人間関係の始まり。それらが彼らの自信を回復させて活力を取り戻す機会になることも期待しています。理科実験・映画製作体験・タッチフットボール体験がきっかけとなるように寄与したいと考えています。

1. 不登校の児童と生徒をゼロまたは減少させます。
2. 理科実験を体験することで、科学の面白さを実感し論理的思考力を育成します。
3. 映画制作体験では、クリエイティブ能力と児童たち感性高め、作品制作一連の作業から、モノづくりの楽しさを知ってもらいます。
4. タッチフットボールは 25 秒間に 1 プレーごと作戦をたてる競技なので、参加者のチームワークとリーダーシップを向上させます。

これらのプロジェクトを数年間継続実施することにより、滋賀県児童の知識力・感性・体力・人間性の育成に刺激を与え、子どもたちが活力ある生活環境を実現できることを応援します。3つすべてのプロジェクトをエントリーされる地域や施設を増加するのが目標です。

3、事業成果

本プロジェクトは、科学部門・芸術部門・スポーツ部門を実施する計画だったが、新型コロナウイルス禍により、予防対策の一環として、接触型の対人コミュニケーションが必須である科学部門とスポーツ部門は中止しました。

芸術部門については、滋賀県東近江市の幼稚園児と小学生児童に絵画を自宅で描いていただき、それらの絵画をアニメーション映画の素材として、映画「オバケたちがいる」を完成することができました。

作品は、11月に開催された滋賀国際映画祭 2020 で上映された。幼稚園児と小学生にとって、描いた絵画が動画となって映画化されるプロセスは、図工や美術教育への関心を促進することに寄与できました。

一方、実施した大学生にとって、幼稚園児や小学生との共同作業は、学びに工夫があれば効果的な教育ができることを体得する貴重な経験ができました。

4、今後の課題など

新型コロナウイルス禍への対応のため、プロジェクトの縮小と中止を選択しました。本プロジェクトの対象である幼稚園と小学校からも、予防対策として対面接触は避けたい要望があり、大学生も対外活動を自重する方針のため、断腸の思いで縮小化しました。また、長期化し現在でも継続するコロナ禍において実施するのは困難なため、2年目からの活動は辞退させていただくことにしました。

卒業を迎える大学生たちにとっては、非常に残念な結果になりました。しかし、本プロジェクトの実施は後輩たちに託し、楽しみながら学ぶことの素晴らしさを今後も示し続けたいと祈願しています。